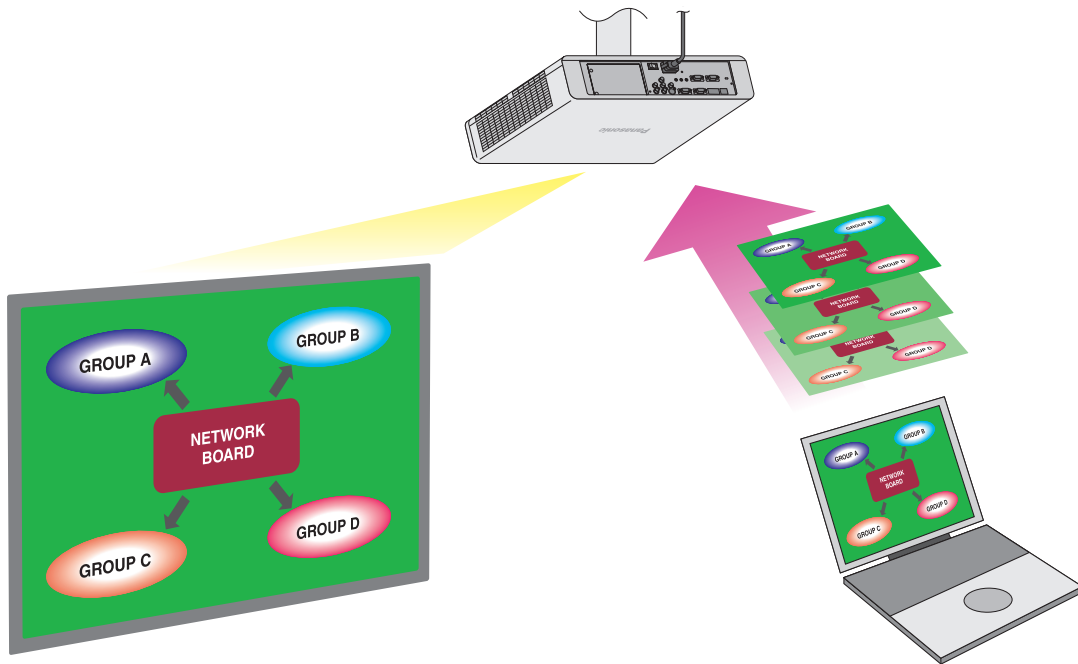
Panasonic®

取扱説明書

ワイヤレスマネージャー ME6.1

Wireless Manager mobile edition 6.1

Mac

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。

TQBH0338 (J)

もくじ

はじめに

準備する

ソフトウェアを起動する

プロジェクターを選択する

もくじ（つづき）

投写する

プロジェクターの登録と編集

オプション機能

その他

ソフトウェア使用許諾書

本ソフトウェアについては、「ソフトウェア使用許諾書」の内容を承諾していただくことが、ご使用の条件になっております。

● 第１条　権利

お客様は、本ソフトウェア（CD-ROM、取扱説明書などに記録または記載された情報のことをいいます）の使用権を得ることはできますが、著作権もしくは知的財産権がお客様に移転するものではありません。

● 第２条　第三者の使用

お客様は、有償あるいは無償を問わず、本ソフトウェアおよびそのコピーしたものを第三者に譲渡あるいは使用させることはできません。

● 第３条　コピーの制限

本ソフトウェアのコピーは、保管（バックアップ）の目的のためだけに限定されます。

● 第４条　使用コンピューター

本ソフトウェアは、お客様が所有または管理する複数台のコンピューターにおいて使用することができます。

● 第５条　解析、変更または改造

本ソフトウェアの解析、変更または改造を行わないでください。
お客様の解析、変更または改造により、何らかの欠陥が生じたとしても、弊社では一切の保証をいたしません。
また、解析、変更または改造の結果、万一お客様に損害が生じたとしても弊社および販売店、販売代理店等は責任を負いません。

● 第６条　アフターサービス

ご使用中、本ソフトウェアに不具合が発生した場合、弊社お客様ご相談センターまで電話でお問い合わせください。
お問い合わせの本ソフトウェアの不具合に関して、弊社が知り得た内容の誤り（バグ）や使用方法の改良など必要な情報をお知らせいたします。
なお、本ソフトウェア仕様は予告なく変更することがあります。

● 第７条　免責

本ソフトウェアに関する弊社の責任は、上記第６条のみとさせていただきます。
本ソフトウェアのご使用にあたり生じたお客様の損害および第三者からのお客様に対する請求については、弊社および販売店、販売代理店等はその責任を負いません。
なお、弊社プロジェクターの使用を伴わない本ソフトウェアの動作保証は一切行いません。

● 第８条　輸出管理

お客様は、本ソフトウェアを購入した国以外の国に持ち出される場合、その国および関係する各国の輸出管理に関連する法規を順守してください。

本ソフトウェアは、下記のソフトウェアを使用しております。
Portion of this software are based in part on the work of the Independent JPEG Group

以下のことをあらかじめご了承ください。

- プロジェクターの使用または故障により生じた直接、間接の損害につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- プロジェクターによるデータの破損につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- イラストや画面表示は、実際と異なる場合があります。
- この説明書は、Mac OS X v10.7で操作したときの画面表示を基本に記載しています。
- 本機ソフトウェアの仕様は、予告なく変更されることがあります。

セキュリティーに関するお願い

本製品をご使用になる場合、以下のような被害を受ける場合が想定されます。

- 本製品を経由したお客様のプライバシー情報の漏えい
- 悪意の第三者による本製品の不正操作
- 悪意の第三者による本製品の妨害や停止

プロジェクター本体とお使いのコンピューターに対して、セキュリティー対策を十分に行ってください。

- パスワードはできるだけ推測されにくいものにしてください。
- パスワードは定期的に変更してください。
- パナソニック株式会社および、その関係会社がお客様に対して直接パスワードを照会することはございません。直接問い合わせがありましても、パスワードを答えないでください。
- ファイアウォールなどの設定により、安全性の確保されたネットワークでご使用ください。
- ご使用のコンピューターのパスワードを設定し、ログインできるユーザーを制限してください。

無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティーに関するご注意

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してコンピューター等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁等）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティーに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる
  悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
  IDやパスワードまたはクレジットカード番号等の個人情報
  メールの内容
  等の通信内容を盗み見られる可能性があります。

- 不正に侵入される
  悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
  個人情報や機密情報を取り出す（情報漏えい）
  特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
  傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
  コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）
  などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANアダプターや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティーの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティーに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線LAN機器は、購入直後の状態においては、セキュリティーに関する設定が行われていない場合があります。お客様がセキュリティー問題発生の可能性を少なくするためには、無線LAN機器をご使用になる前に、必ず無線LAN機器のセキュリティーに関するすべての設定を、各々の無線LAN機器の取扱説明書に従って行ってください。

なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティー設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

本機を無線LANで使用する際のセキュリティー設定について、お客様ご自身で対処できない場合には、「パナソニック お客様ご相談センター」までお問い合わせください。

セキュリティーの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティーに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。

ソフトウェアの使いかた

本ソフトウェアを利用すると、コンピューターの画面をプロジェクターから手軽に投写することができます。
投写するまでの基本的なステップは、次のようになります。

準備する

1 プロジェクターの電源を入れる

2 リモコンの<ネットワーク /NETWORK> ボタン / <Panasonic APP > ボタン（またはプロジェクターの <INPUT SELECT> ボタン）を押す

入力ガイドの表示例
（プロジェクターの映像）

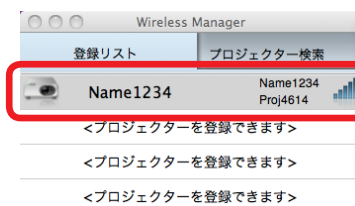
3 プロジェクターの入力ガイドでプロジェクター名とネットワーク ID を確認する
☞「プロジェクターを確認する」（13 ページ）

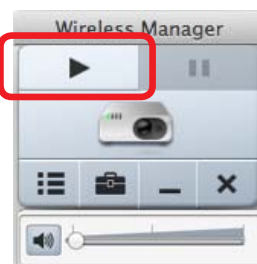
4 本ソフトウェアをコンピューターにインストールする
☞「インストールする」（10 ページ）

ソフトウェアを起動する

5 本ソフトウェアを起動してプロジェクターを登録する
☞「ソフトウェアを起動する」（14 ページ）
☞「プロジェクターの初期登録」（11 ページ）

プロジェクターを選択する

6 3 で確認したプロジェクター名とネットワーク ID に一致するプロジェクターをクリックする
☞「<登録リスト>画面」（15 ページ）
☞「<プロジェクター検索>画面」（16 ページ）
☞「プロジェクターを選択する」（18 ページ〜 28 ページ）

投写する

7 ランチャーの ▶ をクリックする
コンピューターの画面がプロジェクターから投写されます。
☞「ランチャー」（31 ページ）

お知らせ

● 使用するプロジェクターにより、本ソフトウェアの制約事項が異なります。
最新の情報は弊社 WEB サイト（http://www2.panasonic.biz/es/lighting/）の「対応機能一覧表」をご覧ください。
また、プロジェクターの付属品に本ソフトウェアの CD-ROM がある場合は、CD-ROM 内のアプリケーションランチャーにある「対応機能一覧表」をご覧ください。

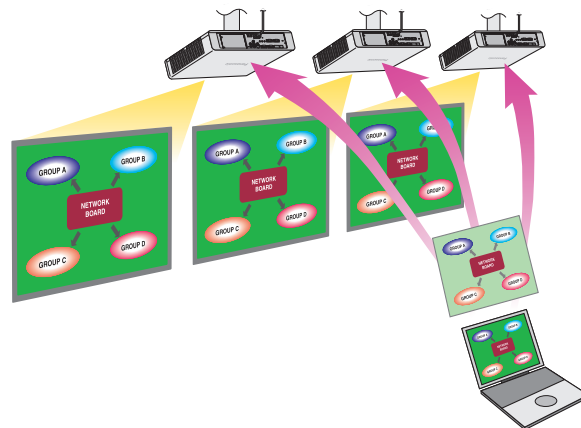
お願い

● プロジェクターの無線 LAN 接続機能使用時は、2.4G Hz または 5 GHz 帯域の電波を使用します。
無線 LAN 接続をするうえでのお願い事項や、使用できる無線 LAN のチャンネルなどの情報は、プロジェクターの取扱説明書をご覧ください。

ソフトウェアの使いかた（つづき）

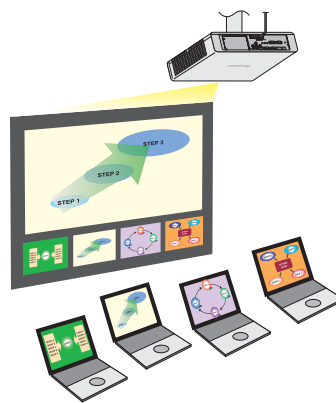
■ ＜複数台のプロジェクターからの投写＞

☞ 18 ～ 20 ページ

複数台のプロジェクターから１台のコンピューターの画面を
投写することができます。

■ ＜マルチライブモード＞

☞ 41 ページ

● ４画面マルチスタイル
複数台のコンピューターのプレゼンテーションに使用します。

● ４画面インデックススタイル
４つのプレゼンテーションを表示しながら、その中の１つに注目を集めたい場合に、このスタイルが便利です。

● 16 画面インデックススタイル
多くのプレゼンテーションを一覧表示したい場合に、このスタイルが便利です。

■ ＜バーチャルリモコン＞

☞ 46 ページ

リモコンと同様の操作をコンピューターから行うことができます。

■ ＜WEB 制御＞

☞ 47 ページ

コンピューターの WEB ブラウザーを使って、プロジェクターを制御することができます。

■ ＜コンテンツマネージャー＞

☞ 48 ページ

コンテンツマネージャーを搭載したプロジェクターに対して、本ソフトウェアから直接コンテンツマネージャーを呼び出すことができます。

ご使用のコンピューターをご確認ください

接続に必要なコンピューター環境

- はじめに、お使いのコンピューターに有線LAN、または無線LAN機能が装備されているかどうかご確認ください。
- プロジェクターとコンピューターを接続する前に、必ず以下の設定をご確認ください。
- すべての無線LANアダプターやコンピューターに内蔵されている無線LANアダプターでの動作を保証するものではありません。

■ 無線LANの場合

チェック1 **無線LANの設定**

- 無線LANアダプターが正しく認識されていますか。
- 無線LANアダプターが有効になっていますか。
- 事前に無線LANアダプターのドライバーをインストールしてください。
  ドライバーのインストール方法は、無線LANアダプターの取扱説明書を参照してください。

チェック2 **ログインするユーザーの設定**

- 管理者権限でログインできますか。

チェック3 **コンピューターの設定**

- セキュリティー（ファイアウォール）ソフトや無線LANアダプターのユーティリティーソフトがインストールされていると、プロジェクターと接続できない場合があります。
- ファイアウォールのブロックを解除または停止していますか。
  ☞「困ったとき」（51 ページ）

■ 有線LANの場合

チェック1 **有線LANケーブルについて**

- ケーブルが正しく接続されていますか。
- システム構成によりケーブル仕様は異なります。プロジェクターの設定とケーブルの仕様をご確認ください。

チェック2 **有線LANの設定**

- 有線LANアダプターが正しく認識されていますか。
- 有線LANアダプターが有効になっていますか。
- 事前に有線LANアダプターのドライバーをインストールしてください。
  ドライバーのインストール方法は、有線LANアダプターの取扱説明書を参照してください。

チェック3 **コンピューターの設定**

- セキュリティー（ファイアウォール）ソフトがインストールされていると、プロジェクターと接続できない場合があります。
- ファイアウォールのブロックを解除または停止していますか。
  ☞「困ったとき」（51 ページ）

必要なシステム構成

本ソフトウェアを使用するには、下記の条件を満たすコンピューターが必要です。

OS：	Mac OS X v10.6, Mac OS X v10.7, Mac OS X v10.8, Mac OS X v10.9 上記OSの日本語版、英語版、中国語版に対応します。 プリインストールもしくはクリーンインストールされたもの以外は保証いたしません。
WEBブラウザー：	● WEB制御を使用する場合： Safari 3.0/4.0/5.0/6.0/7.0 ● コンテンツマネージャーを呼び出して使用する場合： Safari 5.0/6.0/7.0
CPU：	Intel Core 2 Duo以上、もしくは互換のプロセッサー搭載 投写時は、Intel Core i5以上推奨
メモリー：	1024 MB以上
ハードディスク：	100 MB以上の空き容量 （プロジェクター情報を保存するために、別途空き容量が必要です）
ハード条件：	● CDまたはDVDドライブ（ソフトウェアのインストール、取扱説明書の閲覧） ● 有線LANで接続する場合： LAN端子（10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T）が必要 ● 無線LANで接続する場合： 無線LANアダプター（IEEE802.11b/g/n準拠）が必要
モニター画面：	High Color（16bit）以上
デスクトップ領域：	1024ドット× 768ドット以上 2880ドット× 1800ドット以下

お知らせ

- 「通常」ユーザーアカウントでログインしている場合、コンピューターから音声が出ない場合があります。内蔵スピーカーから音声が出ない場合は、本ソフトウェアの終了後、「システム環境設定」の「サウンド」の「出力」で、「内蔵スピーカー」が選択されていることを確認してください。選択されていない場合は、手動で「内蔵スピーカー」に切り換えてください。
- グラフィックス自動切替機能を搭載しているコンピューターは、「システム環境設定」の「省エネルギー」の「グラフィックスの自動切り替え」が有効になっている場合投写に失敗することがあります。投写に失敗する場合は、この機能を無効にして使用してください。
- IEEE802.11nで接続する場合は、いずれも11nに対応する無線LANアダプター、プロジェクター、およびアクセスポイントを使用してください。
  ☞「[USER1], [USER2], [USER3]の設定で使用する」（22 ページ）
- プロジェクターを[S-DIRECT]、または[M-DIRECT]設定で使用する場合は、「WPA2・AES」に対応している無線LANアダプターを利用してください。

上記の条件を満たす、すべてのコンピューターについて動作を保証するものではありません。

ソフトウェアをインストール/アンインストールする

インストールする

1 インストーラーを起動する

プロジェクターの付属品に本ソフトウェアのCD-ROMがある場合

① 本ソフトウェアが収録されているCD-ROMをCDドライブに挿入します。
② CD-ROMドライブ内の「WMmac6.*.dmg」*1 をダブルクリックします。
③ デスクトップに「WMmac6.*」*1 がマウントされます。

WEBサイトから本ソフトウェアをダウンロードした場合

① WEBサイトからダウンロードしたファイル「WMmac6.*.dmg」*1 をダブルクリックします。
② デスクトップに「WMmac6.*」*1 がマウントされます。

✐お知らせ✐

- 本ソフトウェアの最新バージョンは、WEBサイト(http://www2.panasonic.biz/es/lighting/)のサポート情報をご確認ください。
- 管理者権限のアカウントでインストールしてください。
- *1 *アスタリスクは、ソフトウェアのバージョンを表します。

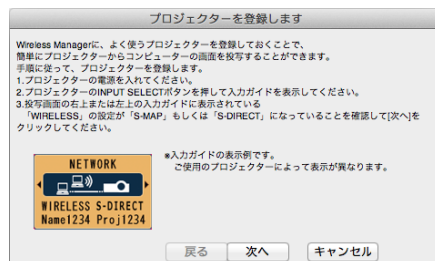
2 マウントされた仮想ディスク内の「Wireless Manager」をダブルクリックする

※ ご使用のコンピューターのOSがOS X 10.6の場合は「Wireless Manager_10.6」をダブルクリックしてください。
インストーラーが起動します。

3 画面の指示に従ってインストールを行う

4 [再起動]をクリックする

プロジェクターの初期登録

頻繁に使うプロジェクターを本ソフトウェアに登録しておくことで、手軽にプロジェクターからコンピューターの画面を投写することができます。
本ソフトウェアを初めて起動したときに<プロジェクターを登録します>画面が表示されます。
使用するプロジェクターの電源を入れ、画面の指示に従って本ソフトウェアにプロジェクターを登録してください。

準備する

お知らせ
- プロジェクターを登録しないで操作を終了する場合は、[キャンセル]をクリックします。
- プロジェクターを1台も登録していない場合は、本ソフトウェアの起動時に<プロジェクターを登録します>画面が表示されます。

ソフトウェアをアンインストールする

1 インストーラーを起動する

プロジェクターの付属品に本ソフトウェアのCD-ROMがある場合

① 本ソフトウェアが収録されているCD-ROMをCDドライブに挿入します。
② CD-ROMドライブ内の「WMmac6.*.dmg」*[1] をダブルクリックします。
③ デスクトップに「WMmac6.*」*[1] がマウントされます。

2 マウントされた仮想ディスク内の「WMUninstaller」をダブルクリックする

- この操作で、音声用のドライバーがアンインストールされます。

3 インストール先の Wireless Manager をゴミ箱にドラッグ＆ドロップする

4 「Finder」メニューから「ゴミ箱を空にする・・・」を選択する

- この操作で、本ソフトウェアがアンインストールされます。

お知らせ
- 音声用のドライバーのみをアンインストールした場合は、音声の出力ができなくなります。
- *[1] ＊アスタリスクは、ソフトウェアのバージョンを表します。

プロジェクターとの接続方法

プロジェクターとコンピューターの接続には、７通りの方法があります。

[S-DIRECT] の設定で使用する

手軽にプロジェクターとコンピューターを無線で通信する場合に使用します。

☞ 20 ページ

[S-MAP] の設定で使用する

使用しているプロジェクターが [S-DIRECT] に対応していない機種の場合に使用します。

☞ 20 ページ

[1] ～ [4] の設定で使用する

使用しているプロジェクターが [S-DIRECT]、[S-MAP] に対応していない機種の場合に使用します。
また、複数台のプロジェクターを同時に使う場合に使用します。

☞ 20 ページ

[M-DIRECT] の設定で使用する

任意のネットワーク、セキュリティーキーを指定してプロジェクターと通信する場合に使用します。

☞ 24 ページ

[USER1] ～ [USER3] の設定で使用する

既存のネットワークやアクセスポイントを利用して通信する場合に使用します。
また、複数台のプロジェクターを同時に使う場合に使用します。

☞ 22 ページ

有線 LAN で接続して使用する

プロジェクターとコンピューターを LAN ケーブルで接続する場合に使用します。
また、複数台のプロジェクターを同時に使う場合に使用します。

☞ 26 ページ

IP アドレス検索で使用する

IP アドレスによる検索機能を使って、プロジェクターと通信する場合に使用します。

☞ 28 ページ

管理者権限がないアカウントの場合

管理者権限がないアカウントでコンピューターにログインした場合は、無線 LAN 接続が [S-DIRECT]、[S-MAP]、[1]、[2]、[3]、[4] に設定されているプロジェクターは使用できません。

- 無線ＬＡＮ接続の設定は、プロジェクターによっては、ネットワーク番号と記載されています。

利用できるプロジェクター

☞「[USER1], [USER2], [USER3] の設定で使用する」（22 ページ）
☞「[M-DIRECT] の設定で使用する」（24 ページ）
☞「有線 LAN で接続して使用する」（26 ページ）
☞「IP アドレス検索で使用する」（28 ページ）

✐お知らせ✐

- コンピューター側のネットワークの設定は、管理者権限のアカウントで行う必要があります。
- 本ソフトウェアのインストールには、管理者権限が必要です。

プロジェクターを確認する

■ プロジェクターの電源

プロジェクターの電源を入れてください。

■ 入力の設定

リモコンの<ネットワーク/NETWORK>ボタン / <Panasonic APP>ボタン（またはプロジェクターの<INPUT SELECT>ボタン）を押して、入力を[NETWORK]または[Panasonic APPLICATION]に切り換えてください。
プロジェクターの投写映像に入力ガイドが表示されます。

■ 入力ガイドの確認

入力ガイドの表示例（プロジェクターの映像）

入力ガイドの「NETWORK」の欄に現在の無線LAN接続の設定、プロジェクター名、ネットワークIDが表示されます。

- 入力ガイドが表示されない場合は、プロジェクターの<メニュー / MENU>ボタンを押して、表示されたメニューから[表示オプション] → [入力ガイド]を「オン」、または「詳細表示」にしてください。

■ ネットワークステータスの確認

プロジェクターのメニューで、ネットワークの設定情報を確認することができます。

- プロジェクターの<メニュー>ボタンを押して、表示されたメニューから[ネットワーク] → [ネットワークステータス]で詳細なネットワークの設定情報を確認することができます。
- 手軽にコンピューターと無線LANで接続する場合は、[S-DIRECT]、または[S-MAP]の設定で使用するのが便利です。
☞「[S-DIRECT], [S-MAP], [1], [2], [3], [4]の設定で使用する」（20 ページ）

お知らせ

- 使用するプロジェクターにより、ネットワークの設定方法が異なる場合があります。
☞ プロジェクターの取扱説明書

準備する

ソフトウェアを起動する

本ソフトウェアを起動するときは、

インストール先、または Dock 内の Wireless Manager をクリックする

本ソフトウェアを起動すると＜登録リスト＞画面とランチャー、または＜プロジェクター検索＞画面とランチャーが表示されます。

お知らせ

- プロジェクターを 1 台も登録していない場合は、本ソフトウェアの起動時に＜プロジェクターを登録します＞画面が表示されます。
  ☞「プロジェクターの初期登録」（11 ページ）
  プロジェクターを登録せずに次へ進む場合は、[キャンセル] をクリックします。

＜登録リスト＞画面

プロジェクターを登録することで、コンピューターの画面を素早くプロジェクターから投写することができます。
プロジェクター、および複数のプロジェクターで構成されるグループを合計４つまで登録することができます。
☞「プロジェクターまたはグループを登録する」（34 ページ）

①登録名
本ソフトウェアに登録したプロジェクター、またはグループの名前です。
☞「登録した名前を変更する」（37 ページ）

②プロジェクター名
プロジェクターに設定されている名前です。
☞「プロジェクターを確認する」（13 ページ）

③ネットワーク ID
プロジェクターを識別する Proj ＋４桁の数字からなる ID です。
☞「プロジェクターを確認する」（13 ページ）

④登録台数
グループを構成しているプロジェクターの台数です。
グループ登録の場合に、プロジェクター名とネットワーク ID の代わりに表示されます。

⑤ネットワーク
プロジェクターを登録したときの無線 LAN 接続の設定を表します。

[S-DIRECT]、または [S-MAP]
電波の強度がレベルで表示されます。

－－　登録時は、[S-DIRECT]、または [S-MAP] だったが見つからない

1 ～ 4　[1] ～ [4]

U　[有線 LAN]、[M-DIRECT]、[USER1] ～ [USER3]、[IP]

⑥未登録エリア
プロジェクターの登録に空きがあると、＜プロジェクターを登録できます＞と表示されます。
このエリアをクリックすると、＜プロジェクター登録＞画面に切り換わります。

お知らせ
- プロジェクターが登録されていない場合は、＜登録リスト＞画面にプロジェクター／グループが表示されません。
- 「登録台数」の部分にマウスカーソルを置くと、登録されている台数分の「プロジェクター名／ネットワーク ID」がポップアップ表示されます。

＜プロジェクター検索＞画面

⑦更新ボタン

ボタンをクリックすることで、プロジェクターの検索結果を最新の状態に更新します。

⑧［使用台数］ボタン

同時に使用するプロジェクターの台数を 1台 ボタン、または 複数台 ボタンをクリックして切り換えます。
複数台 が選択されているときは、［検索切換］ボタンの S をクリックすることができません。

⑨［検索切換］ボタン

各ボタンをクリックすることで、それぞれに該当する無線LAN接続の設定のプロジェクターを検索して表示します。
使用するプロジェクターの無線LAN接続の設定を確認し、対応するボタンをクリックして切り換えてください。

ボタン	検索するプロジェクター
S [S-DIRECT] [S-MAP]	無線LAN接続が[S-DIRECT]、または[S-MAP]に設定されているプロジェクターを検索します。 コンピューターのネットワークを設定しなくても、すぐにプロジェクターを使いたいときに便利です。 複数台のプロジェクターで、同時に投写することはできません。 ☞「[S-DIRECT], [S-MAP], [1], [2], [3], [4]の設定で使用する」（20 ページ）
U [USER] [M-DIRECT] [有線LAN]	無線LAN接続が[USER1]～[USER3]、[M-DIRECT]に設定されているプロジェクター、または有線LANで接続したプロジェクターを検索します。 ☞「[USER1], [USER2], [USER3]の設定で使用する」（22 ページ） ☞「[M-DIRECT]の設定で使用する」（24 ページ） ☞「有線LANで接続して使用する」（26 ページ）
1 ～ 4	無線LAN接続が[1]～[4]に設定されているプロジェクターを検索します。 ☞「[S-DIRECT], [S-MAP], [1], [2], [3], [4]の設定で使用する」（20 ページ）
IP	IPアドレスを指定してプロジェクターを検索します。 ☞「IPアドレス検索で使用する」（28 ページ）

⑩ [使用する] ボタン

ボタンをクリックすることで、選択したプロジェクターから投写できる状態になります。

お知らせ

- 管理者権限がないアカウントでコンピューターにログインした場合は、無線LAN接続が[S-DIRECT]、[S-MAP]、[1]、[2]、[3]、[4]に設定されているプロジェクターは使用できません。
- 無線LAN接続の[1]は、WEP（無線通信の暗号化）が設定されていません。
  無線LAN接続の[2] ～ [4]は、WEP（無線通信の暗号化）が設定されていますので、セキュリティーを重視される場合は、プロジェクターの無線LAN接続を[2] ～ [4]に設定してください。
- 無線LAN接続が[1]、および[USER]（[USER1] ～ [USER3]）のプロジェクターで[暗号化]を[無し]に設定した場合でも、画像／音声データは、あらかじめ全無線LAN接続の設定においてAES暗号化処理が施されていますので、重要なデータは保護されます。
- プロジェクターを選択するためには、プロジェクターに設定されているものと同じ無線LAN接続を[検索切換]ボタンから選択する必要があります。プロジェクターの無線LAN接続の設定を確認するには、プロジェクターのネットワークメニュー、もしくは入力ガイドを確認してください。
  ☞「プロジェクターを確認する」（13 ページ）

登録済みのプロジェクターを選択する

事前に登録しておいたプロジェクターを＜登録リスト＞画面から選択して、コンピューターの画面を投写します。
また、登録しておいたグループを選択すると、複数台のプロジェクターからコンピューターの画面を投写することができます。

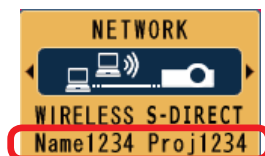
● あらかじめ、プロジェクターの電源を入れて入力ガイドを表示し、無線LAN接続の設定、プロジェクター名およびネットワークIDを確認しておきます。
☞「プロジェクターを確認する」（13 ページ）
☞「プロジェクターの初期登録」（11 ページ）
☞「プロジェクターまたはグループを登録する」（34 ページ）

お知らせ

● プロジェクターを1台も登録していない場合は、本ソフトウェアの起動時に＜プロジェクターを登録します＞画面が表示されます。
☞「プロジェクターの初期登録」（11 ページ）

1 本ソフトウェア を起動して＜登録リスト＞画面を表示する

☞「ソフトウェアを起動する」（14 ページ）

2 入力ガイドに表示されているプロジェクター名とネットワークIDに一致するプロジェクターをクリックする

入力ガイドの表示例
（プロジェクターの映像）

＜登録リスト＞画面の表示例
（本ソフトウェアの画面）

お知らせ

● 使用するプロジェクターにより、入力ガイドの表示が異なる場合があります。
☞「プロジェクターを確認する」（13 ページ）
●「登録台数」の部分にマウスカーソルを置くと、登録されている台数分の「プロジェクター名/ネットワークID」がポップアップ表示されます。

プロジェクターが投写できる状態になると、ランチャーの操作が有効になります。
☞「ランチャー」（31 ページ）

登録済みのプロジェクターを選択する（つづき）

- ネットワークの設定変更を確認する画面が表示されたときは、[はい]をクリックしてください。

- 管理者権限が要求されたときは、管理者の名前とパスワードを入力してください。

[S-DIRECT], [S-MAP], [1], [2], [3], [4] の設定で使用する

[S-DIRECT]、[S-MAP]、[1]、[2]、[3]、[4] の無線LAN接続に設定されているプロジェクターから、使用したいプロジェクターを選択します。

- 手軽にコンピューターと無線LANで接続する場合は、[S-DIRECT]、または [S-MAP] の設定で使用するのが便利です。
- あらかじめ、プロジェクターの電源を入れて入力ガイドを表示し、無線LAN接続の設定、プロジェクター名およびネットワークIDを確認しておきます。
  ☞「プロジェクターを確認する」（13 ページ）

1 本ソフトウェア を起動して<プロジェクター検索>画面を表示する

☞「ソフトウェアを起動する」（14 ページ）

2 使用するプロジェクターの台数に応じて [使用台数] ボタンの 1台 、または 複数台 をクリックし、入力ガイドに表示されている無線LAN接続の設定に該当する [検索切換] ボタンをクリックする

無線LAN接続の設定が [S-DIRECT]、または [S-MAP] のときは、 S をクリックし、無線LAN接続の設定が [1]、[2]、[3]、[4] のときは、同じ番号のボタンをクリックします。

- <プロジェクター検索>画面を表示したときは、 1台 が選択されています。
- 複数台 を選択した場合は、 S を選択することができません。

入力ガイドの表示例
（プロジェクターの映像）

<プロジェクター検索>画面の表示例
（本ソフトウェアの画面）

3 入力ガイドに表示されているプロジェクター名とネットワークIDに一致するプロジェクターをクリックする

複数台のプロジェクターを同時に使用する場合は、使用するプロジェクターをすべて選んでください。

入力ガイドの表示例
（プロジェクターの映像）

<プロジェクター検索>画面の表示例
（本ソフトウェアの画面）

4 [使用する] をクリックする

プロジェクターが投写できる状態になると、ランチャーの操作が有効になります。

☞「ランチャー」（31 ページ）

✐お知らせ✐

- ネットワークの設定変更を確認する画面が表示されたときは、[はい] をクリックしてください。
  ☞ 19 ページ
- 使用するプロジェクターにより、入力ガイドの表示が異なる場合があります。
  ☞「プロジェクターを確認する」（13 ページ）
- 複数台のプロジェクターを選択して使用する場合は、[使用台数] ボタンの 複数台 を選択してください。
  最大で 8 台のプロジェクターを同時に使用することができます。
  ☞ 16 ページ

[USER1], [USER2], [USER3] の設定で使用する

無線LAN接続が[USER1]、[USER2]、[USER3]に設定されているプロジェクターを選択します。

● あらかじめ、プロジェクターの電源を入れて入力ガイドを表示し、プロジェクター名とネットワークIDを確認しておきます。
☞「プロジェクターを確認する」(13 ページ)

■ プロジェクターの設定

1 プロジェクターのネットワーク設定をする

① プロジェクターのメニュー画面から[ネットワーク] → [無線LAN]で無線LAN接続の設定の[USER1](または[USER2]、[USER3])を選択する
② ネットワークの設定をする
☞ プロジェクターの取扱説明書

AD HOC接続の場合(「用語解説」49 ページ)(工場出荷時の状態での接続になります)	
SSID	Panasonic Projector
DHCP	オフ
IPアドレス	192.168.11.100
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.11.1
モード	AD HOC
認証	オープン
暗号化	無し
チャンネル	11

アクセスポイント経由(DHCP)の場合(「用語解説」49 ページ)	
SSID	接続するアクセスポイント名を入力する
DHCP	オン
モード	INFRASTRUCTURE
認証	接続するアクセスポイントに合わせて入力する
暗号化	
チャンネル	

● 上記以外の内容にするときは、ネットワーク管理者に確認してから行ってください。

■ コンピューターの設定

2 プロジェクターの設定に合わせて、コンピューターのネットワークを設定する

プロジェクターが工場出荷時の状態の場合は、コンピューターのDHCP機能を「オン」にして使用してください。
● コンピューターのネットワークを設定するときは、ネットワーク管理者に確認してから行ってください。

3 プロジェクターに設定されているネットワークに接続する

メニューバー右端の をクリックして、プロジェクターに設定されているSSIDのネットワークに接続してください。

お知らせ
● ネットワークが見つからない場合は、お使いの無線LANアダプターの取扱説明書をご確認ください。
● プロジェクターの設定を正しく行っても、アクセスポイント経由で無線LAN 接続ができない場合は、お使いのアクセスポイントのメーカーにお問い合わせください。

[USER1], [USER2], [USER3] の設定で使用する（つづき）

■ プロジェクターの選択

4 **本ソフトウェア を起動して＜プロジェクター検索＞画面を表示する**

☞「ソフトウェアを起動する」（14 ページ）

5 **使用するプロジェクターの台数に応じて［使用台数］ボタンの 1 台 、または 複数台 をクリックし、［検索切換］ボタンの U をクリックする**

6 **入力ガイドに表示されているプロジェクター名とネットワーク ID に一致するプロジェクターをクリックする**

複数台のプロジェクターを同時に使用する場合は、使用するプロジェクターをすべて選んでください。

入力ガイドの表示例
（プロジェクターの映像）

＜プロジェクター検索＞画面の表示例
（本ソフトウェアの画面）

- ネットワークの設定を正しく行ってもプロジェクターが見つからない場合は、「IP アドレス検索で使用する」（28 ページ）をご利用ください。

7 **［使用する］をクリックする**

プロジェクターが投写できる状態になると、ランチャーの操作が有効になります。

☞「ランチャー」（31 ページ）

お知らせ

- コンピューターのネットワークを設定するときは、ネットワーク管理者に確認してから行ってください。
- 使用するプロジェクターにより、入力ガイドの表示が異なる場合があります。
  ☞「プロジェクターを確認する」（13 ページ）
- 複数台のプロジェクターを選択して使用する場合は、［使用台数］ボタンの 複数台 を選択してください。
  最大で 8 台のプロジェクターを同時に使用することができます。
  ☞ 16 ページ

[M-DIRECT] の設定で使用する

プロジェクターとコンピューターとをインフラストラクチャーモードでダイレクトに接続します。
（アクセスポイントは不要です。）
☞「インフラストラクチャーモード」（49 ページ）

- あらかじめ、プロジェクターの電源を入れて入力ガイドを表示し、プロジェクター名とネットワーク ID を確認しておきます。
  ☞「プロジェクターを確認する」（13 ページ）

■ プロジェクターの設定

1 プロジェクターのネットワーク設定をする

① メニュー画面から [ネットワーク] → [無線 LAN] で [M-DIRECT] を選択する
② ネットワークの設定をする
☞ プロジェクターの取扱説明書

工場出荷時の設定内容	
SSID	M-DIRECT ＋ネットワーク ID の下４桁
IP アドレス	192.168.12.100
サブネットマスク	255.255.255.0
チャンネル	1
キー	M-DIRECT ＋ネットワーク ID の下４桁 例："M-DIRECT1234"

お願い
- 上記以外の内容にするときは、ネットワーク管理者に確認してから行ってください。
- 工場出荷時の状態のままの [キー] は、第三者による情報の漏えいの危険があります。必ず、工場出荷時の値から変更してください。

■ コンピューターの設定

2 プロジェクターの設定に合わせて、コンピューターのネットワークを設定する

プロジェクターが工場出荷時の状態の場合は、コンピューターの DHCP 機能を「オン」にして使用してください。
- コンピューターのネットワークを設定するときは、ネットワーク管理者に確認してから行ってください。

3 プロジェクターに設定されているネットワークに接続する

メニューバー右端の をクリックして、プロジェクターに設定されている SSID のネットワークに接続してください。

■ プロジェクターの選択

4 本ソフトウェア を起動して<プロジェクター検索>画面を表示する

☞「ソフトウェアを起動する」（14 ページ）

5 ［使用台数］ボタンの 1台 をクリックして、［検索切換］ボタンの U をクリックする

6 入力ガイドに表示されているプロジェクター名とネットワーク ID に一致するプロジェクターをクリックする

入力ガイドの表示例
（プロジェクターの映像）

<プロジェクター検索>画面の表示例
（本ソフトウェアの画面）

● ネットワークの設定を正しく行ってもプロジェクターが見つからない場合は、「IP アドレス検索で使用する」（28 ページ）をご利用ください。

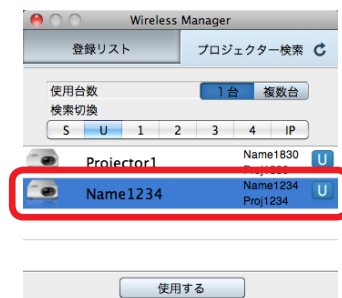
7 ［使用する］をクリックする

プロジェクターが投写できる状態になると、ランチャーの操作が有効になります。

☞「ランチャー」（31 ページ）

お知らせ

● コンピューターのネットワークを設定するときは、ネットワーク管理者に確認してから行ってください。

● 使用するプロジェクターにより、入力ガイドの表示が異なる場合があります。

☞「プロジェクターを確認する」（13 ページ）

有線LANで接続して使用する

有線LANを使ってプロジェクターとコンピューターを接続します。

- あらかじめ、プロジェクターの電源を入れて入力ガイドを表示し、プロジェクター名とIネットワークIDを確認しておきます。
  ☞「プロジェクターを確認する」（13 ページ）

■ プロジェクターの設定

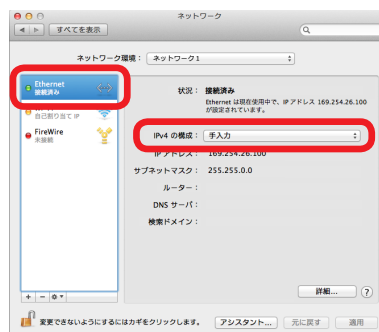
1 プロジェクターのネットワーク設定をする

① メニュー画面から[ネットワーク]で[有線LAN]を選択する
② ネットワークの設定をする
☞ プロジェクターの取扱説明書

工場出荷時の設定内容	
DHCP	オフ
IPアドレス	192.168.10.100
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.10.1

■ コンピューターの設定

2 TCP/IPの設定を変更する

① [システム環境設定] ➞ [ネットワーク]を選択する
② 接続のリストから「Ethernet」をクリックする
③ [IPv4の構成]を「手入力」に変更する

3 プロジェクターの設定に合わせて、コンピューターのネットワークを設定する

「IPアドレス」、「サブネットマスク」、および「ルーター」のボックスに値を入力する

- コンピューターのネットワークを設定するときは、ネットワーク管理者に確認してから行ってください。

ネットワーク設定が工場出荷時のプロジェクターと接続する場合	
IPアドレス	192.168.10.101
サブネットマスク	255.255.255.0
ルーター	192.168.10.1

■ プロジェクターの選択

4 本ソフトウェア を起動して<プロジェクター検索>画面を表示する

☞「ソフトウェアを起動する」（14 ページ）

5 使用するプロジェクターの台数に応じて［使用台数］ボタンの 1台 、または 複数台 をクリックし、［検索切換］ボタンの U をクリックする

6 入力ガイドに表示されているプロジェクター名とネットワークIDに一致するプロジェクターをクリックする

複数台のプロジェクターを同時に使用する場合は、使用するプロジェクターをすべて選んでください。

入力ガイドの表示例
（プロジェクターの映像）

<プロジェクター検索>画面の表示例
（本ソフトウェアの画面）

● ネットワークの設定を正しく行ってもプロジェクターが見つからない場合は､「IPアドレス検索で使用する」（28 ページ）をご利用ください。

7 ［使用する］をクリックする

プロジェクターが投写できる状態になると、ランチャーの操作が有効になります。

☞「ランチャー」（31 ページ）

お知らせ

● コンピューターのネットワークを設定するときは、ネットワーク管理者に確認してから行ってください。

● 使用するプロジェクターにより、入力ガイドの表示が異なる場合があります。

☞「プロジェクターを確認する」（13 ページ）

● 複数台のプロジェクターを選択して使用する場合は、［使用台数］ボタンの 複数台 を選択してください。
最大で８台のプロジェクターを同時に使用することができます。

☞ 16 ページ

IP アドレス検索で使用する

プロジェクターの IP アドレスを直接入力し、プロジェクターを検索します。

- プロジェクターとコンピューターをあらかじめ通信可能なネットワークに接続しておく必要があります。
  詳しくは、ネットワーク管理者に確認してください。
- あらかじめ、プロジェクターの電源を入れて入力ガイドを表示しておきます。
  ☞「プロジェクターを確認する」（13 ページ）

1 本ソフトウェア を起動して＜プロジェクター検索＞画面を表示する

☞「ソフトウェアを起動する」（14 ページ）

2 使用するプロジェクターの台数に応じて［使用台数］ボタンの [1台]、または [複数台] をクリックし、［検索切換］ボタンの [IP] をクリックする

■ 1 台のプロジェクターと通信する場合

3 使用するプロジェクターの IP アドレスを入力し をクリックする

4 検索したプロジェクターのプロジェクター名とネットワーク ID を確認したうえで［使用する］をクリックする

プロジェクターが投写できる状態になると、ランチャーの操作が有効になります。

☞「ランチャー」（31 ページ）

入力ガイドの表示例
（プロジェクターの映像）

＜プロジェクター検索＞画面の表示例
（本ソフトウェアの画面）

> ✐お知らせ✐
> - 使用するプロジェクターにより、入力ガイドの表示が異なる場合があります。
>   ☞「プロジェクターを確認する」（13 ページ）

■ 複数台のプロジェクターと通信する場合

3 **［追加］をクリックして、使用するプロジェクターすべてのIPアドレスを入力し、 をクリックする**

● 入力したIPアドレスを削除する場合は、削除するIPアドレスを選択し、［削除］をクリックします。

4 **検索したプロジェクターのプロジェクター名とネットワークIDを確認したうえで［使用する］をクリックする**

プロジェクターが投写できる状態になると、ランチャーの操作が有効になります。

☞「ランチャー」（31 ページ）

入力ガイドの表示例
（プロジェクターの映像）

<プロジェクター検索>画面の表示例
（本ソフトウェアの画面）

お知らせ

● 使用するプロジェクターにより、入力ガイドの表示が異なる場合があります。
☞「プロジェクターを確認する」（13 ページ）

● 複数台のプロジェクターを選択して使用する場合は、［使用台数］ボタンの 複数台 を選択してください。
最大で８台のプロジェクターを同時に使用することができます。
☞ 16 ページ

プロジェクターにパスワードが設定されている場合

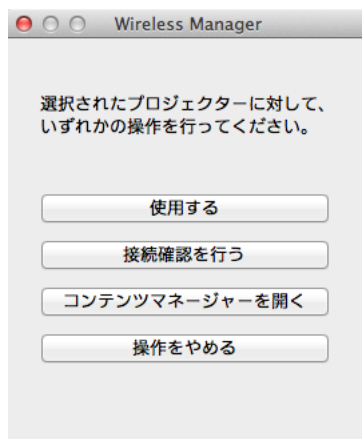
パスワードが設定されているプロジェクターに接続した場合、<パスワード入力>画面が表示されます。
プロジェクターに設定されているネットワークのパスワードを入力し、［OK］をクリックしてください。

お知らせ

● <パスワード入力>画面で［キャンセル］をクリックすると、プロジェクターを選択する前の画面に戻ります。
パスワードの設定方法については、使用しているプロジェクターの取扱説明書を確認してください。

● 使用するプロジェクターの中にパスワードが必要なプロジェクターが複数台あった場合は、１台ごとに<パスワード入力>画面が表示されます。
ネットワークIDを確認して、該当するパスワードを入力してください。

プロジェクターがコンテンツマネージャーを搭載している場合

コンテンツマネージャーを搭載しているプロジェクターに接続した場合、<コンテンツマネージャー表示>画面が表示されます。

①プロジェクターと接続して、投写ができる状態になります。

②接続しようとしているプロジェクターのインジケーターを点滅させます。

③コンピューターのWEBブラウザーを使って、コンテンツマネージャーを表示します。

④プロジェクターを選択する前の画面に戻ります。

✐お知らせ✐

● コンテンツマネージャーにて、サイネージ再生/サイネージ設定の状況が確認できます。
サイネージ再生機能/サイネージ設定機能の詳細については、プロジェクターの取扱説明書をご覧ください。

ランチャーを操作する

本ソフトウェアを起動すると、<登録リスト>画面とともにランチャーが表示されます。
プロジェクターの操作（投写の開始や停止）や音量調整、また他の画面を表示するなどさまざまな操作をランチャーで行うことができます。
プロジェクターと通信ができているときは、投写を制御するボタンの操作が有効になります。

ランチャー

①投写の開始と停止を行います。
投写中は、■（停止）に変わります。

②投写を一時停止します。
投写中のみ操作ができます。
操作を行ったときの画像で静止します。

③プロジェクターとの通信状態をアイコンで表示します。
1台のプロジェクターと通信しているときは、プロジェクターが1台のアイコンが表示されます。
また、複数台のプロジェクターと通信しているときは、プロジェクターが3台のアイコンが表示されます。

  投写不可　プロジェクターが選択されていません。

  投写可能　プロジェクターが選択されています。

  投写中　現在、プロジェクターから投写している状態です。

④<登録リスト>画面、または<プロジェクター検索>画面を表示します。

⑤<オプション>画面を表示します。
☞ 40 ページ

⑥ランチャーの表示を最小にします。

⑦音量を調整します。（初期設定では、表示されません。）
☞ 32 ページ

⑧本ソフトウェアを終了します。
☞ 32 ページ

お知らせ
- ランチャーは、投写映像には表示されません。
- ランチャーの位置は、マウスでドラッグして自由に変えることができます。
- ランチャーの表示を最小にしてDockに収納したときは、Dock内の をクリックすることで、ランチャーを再度表示させることができます。
- 「プロジェクターの選択と同時に投写を開始する」(40 ページ) を有効にしている場合は、プロジェクターとの通信が完了すると、▶ をクリックしなくても投写を開始します。
- 動画再生用のアプリケーションによっては、動画部分が再生されないことがあります。

● スタンバイ状態のプロジェクターをランチャーで開始操作を行うと、電源が入って投写を開始します。

お願い
- プロジェクターの電源を入れる操作をする際は、プロジェクター周辺の人の目に突然光源からの光が入ることがないよう注意してください。

お知らせ
- 電源コンテンツは、突然プロジェクターが投写を開始してもプロジェクター周辺の人の目に光源からの光が入らない設置環境の場合のみタイムテーブルに登録してください。

音量を調節する

● ランチャーの を調整する

出力される音量を調整することができます。

■ 音量を調整するアイコンが表示されない場合

ランチャーの をクリックして<オプション>画面を開き、［設定］→「投写時に映像と一緒に音声も出力する」にチェックをつけてください。

☞「オプションの設定」（40 ページ）

お知らせ
- 複数台のプロジェクターと同時に通信している場合は、利用できません。

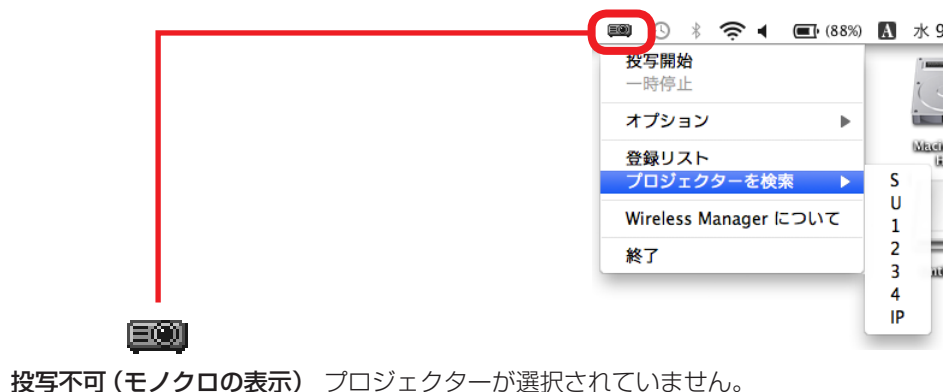
ソフトウェアを終了する

● ランチャーの × をクリックする

お知らせ
- 登録リストにプロジェクターが 1 台も登録されていない場合、最後に使用したプロジェクターが自動的に登録されます。このとき、複数台のプロジェクターを使用していた場合には、グループとして自動的に登録されます。
  次回、本ソフトウェアを起動したときには、<登録リスト>画面から同じプロジェクターを選ぶことができ、手軽に投写することができます。
  ☞「登録済みのプロジェクターを選択する」（18 ページ）

メニューバーを操作する

メニューバーの をクリックすると、本ソフトウェアやプロジェクターを操作するメニューが表示されます。
本ソフトウェアを起動するとランチャーが表示されますが、このメニューからも同様の操作を行うことができます。

投写不可（モノクロの表示） プロジェクターが選択されていません。

投写可能（緑の表示） プロジェクターが選択されています。

投写中（青の表示） 現在、プロジェクターから投写している状態です。

投写開始	投写を開始します。 投写中は、［投写停止］に表示が変わります。 ［投写停止］を選択すると、投写映像が黒の画像になります。
一時停止	投写を一時停止します。 操作を行ったときの画像で静止します。 一時停止中は、［一時停止解除］に表示が変わります。
オプション	＜オプション＞画面を表示します。 ☞ 40 ページ
登録リスト	＜登録リスト＞画面を表示します。 ☞ 15 ページ
プロジェクターを検索	プルダウンメニューからネットワーク番号を選ぶと＜プロジェクター検索＞画面が表示されます。 選択したネットワーク番号のプロジェクターを検索して結果を表示します。 ☞ 16 ページ
Wireless Manager について	本ソフトウェアのバージョン情報を表示します。
終了	本ソフトウェアを終了します。

プロジェクターまたはグループを登録する

本ソフトウェアの<登録リスト>画面には、プロジェクター、および複数のプロジェクターで構成されるグループを合計4つまで登録することができます。
プロジェクターを登録することで、ワンクリックでコンピューターの画面をプロジェクターを使って投写することができます。

<登録リスト>画面の<プロジェクターを登録できます>をクリックすると<プロジェクター登録>画面が表示されます。

<プロジェクター登録>画面

①[登録台数]ボタン

プロジェクター1台を登録するか、複数台のプロジェクターで構成されるグループで登録するかを切り換えます。

②[検索切換]ボタン

検索方法を切り換えます。

☞「[検索切換]ボタン」(16ページ)

ボタン	検索するプロジェクター
S	無線LAN接続が[S-DIRECT]、または[S-MAP]に設定されているプロジェクターを検索します。 複数台のプロジェクターで、同時に投写することはできません。
U	無線LAN接続が[USER1]～[USER3]、[M-DIRECT]に設定されているプロジェクター、または有線LANで接続したプロジェクターを検索します。
1 ～ 4	無線LAN接続が[1]～[4]に設定されているプロジェクターを検索します。
IP	IPアドレスを指定してプロジェクターを検索します。

③更新ボタン

ボタンをクリックすることで、プロジェクターの検索結果を最新の状態に更新します。

④[登録する]ボタン

選択したプロジェクターを登録して<登録リスト>画面に戻ります。

☞ 15ページ

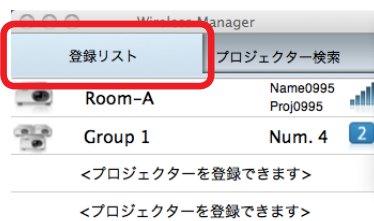
⑤[キャンセル]ボタン

<登録リスト>画面に戻ります。

☞ 15ページ

プロジェクターまたはグループを登録する（つづき）

ここでは、プロジェクターやグループを登録する手順を説明します。

1 本ソフトウェア を起動して＜登録リスト＞画面を表示する

2 ＜プロジェクターを登録できます＞をクリックして＜プロジェクター登録＞画面を表示する

3 登録するプロジェクターの台数に応じて［登録台数］ボタンの 1台 、または 複数台 をクリックし、入力ガイドに表示されている無線LAN接続の設定に該当する［検索切換］ボタンをクリックする

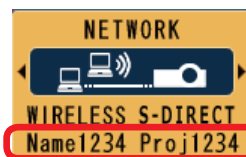
無線LAN接続の設定が［S-DIRECT］、または［S-MAP］のときは、 S をクリックします。

その他の無線LAN接続の設定については、「［検索切換］ボタン」（16 ページ）の「検索するプロジェクター」を参照してください。

- ＜プロジェクター登録＞画面を表示したときは、 1台 が選択されています。
- 複数台 を選択した場合は、 S を選択することができません。

入力ガイドの表示例
（プロジェクターの映像）

＜プロジェクター登録＞画面の表示例
（本ソフトウェアの画面）

4 入力ガイドに表示されているプロジェクター名とネットワークIDに一致するプロジェクターをクリックする

入力ガイドの表示例
（プロジェクターの映像）

＜プロジェクター登録＞画面の表示例
（本ソフトウェアの画面）

プロジェクターの登録と編集

5 ［登録する］をクリックする

登録したプロジェクターが＜登録リスト＞画面に表示されます。

＜プロジェクター登録＞画面の表示例
（本ソフトウェアの画面）

＜登録リスト＞画面の表示例
（本ソフトウェアの画面）

お知らせ

- 使用するプロジェクターにより、入力ガイドの表示が異なる場合があります。
  ☞「プロジェクターを確認する」（13 ページ）
- プロジェクター名が登録名として登録されます。
  登録名を変更する場合は、「登録した名前を変更する」（37 ページ）を参照してください。
- 複数のプロジェクターをグループで登録する場合は、［登録台数］ボタンの 複数台 を選択して、使用するプロジェクターをすべて選んで登録してください。
- 複数のプロジェクターをグループで登録する場合は、それぞれのプロジェクターの無線LAN 接続の設定が同一である必要があります。

登録した名前を変更する

＜登録リスト＞画面に登録したプロジェクターやグループの登録名を変更します。

1 ＜登録リスト＞画面で、名前を変更するプロジェクター、またはグループにマウスカーソルを移動して副ボタンをクリックする

2 [登録名を変更する] をクリックする

3 新しい名前を入力して [OK] をクリックする

お知らせ

- 入力できる文字数は、最大で 16 文字です。
- 下記の文字は、使用することができません。
  ¥ / : * ? ˝ ＜ ＞ |

登録したプロジェクターまたはグループを削除する

＜登録リスト＞画面に登録したプロジェクターやグループを削除します。

1 ＜登録リスト＞ 画面で、削除するプロジェクター、またはグループにマウスカーソルを移動して副ボタンをクリックする

2 [登録リストから削除する] をクリックする

3 削除を確認するメッセージが表示されるので、[はい] をクリックする

別のプロジェクターまたはグループに変更する

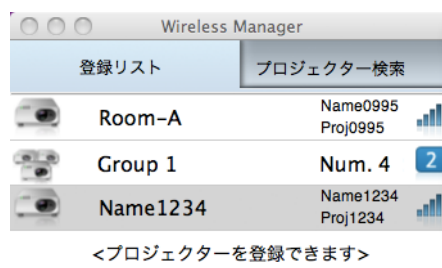
<登録リスト>画面に登録したプロジェクターやグループを、別のプロジェクターやグループに変更します。

1 <登録リスト>画面で、変更するプロジェクター、またはグループにマウスカーソルを移動して副ボタンをクリックする

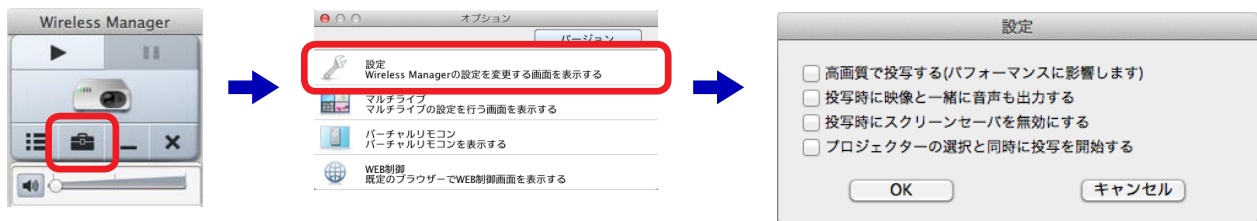
2 [登録内容を変更する] をクリックする

3 別のプロジェクターを検索する

☞「プロジェクターまたはグループを登録する」(34 ページ)

4 変更を確認するメッセージが表示されるので、[はい] をクリックする

オプションの設定

オプション機能を使って、投写時の設定などを変更することができます。

＜オプション＞画面を開くには、ランチャーの ［オプション］をクリックします。

■ 設定

■「高画質で投写する（パフォーマンスに影響します）」

投写映像を高画質で投写します。
ただし、画質を優先するため投写映像の表示速度が遅くなる場合があります。
投写映像の表示速度を優先する場合は、チェックを外します。

■「投写時に映像と一緒に音声も出力する」

投写中にプロジェクターから音声を出力します。
音声を出力しない場合は、チェックを外します。
● 複数台のプロジェクターと同時に通信している場合は、利用できません。

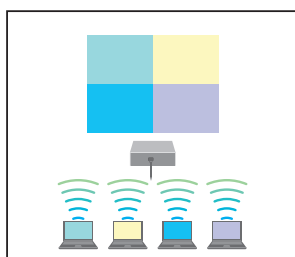
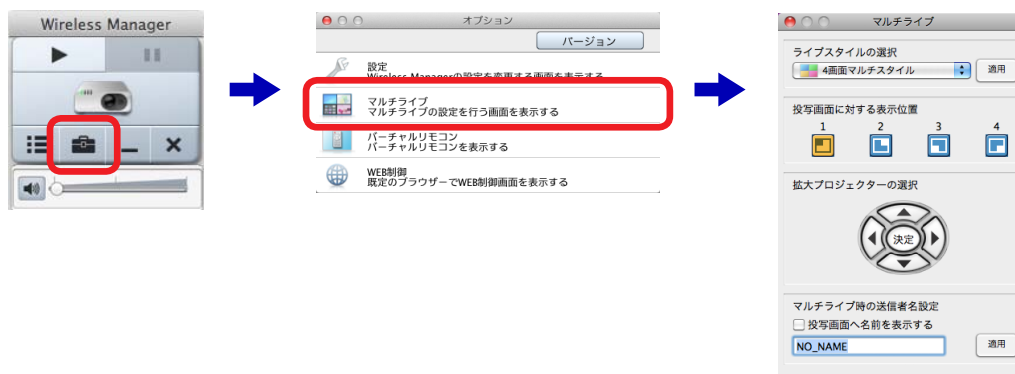
■「投写時にスクリーンセーバを無効にする」

投写中にコンピューターのスクリーンセーバー機能を無効にします。
● パスワード付きのスクリーンセーバーが無効になりますので、席を離れる場合には注意してください。

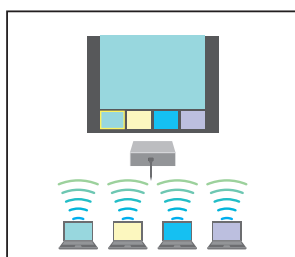
■「プロジェクターの選択と同時に投写を開始する」

＜登録リスト＞画面、または＜プロジェクター検索＞画面からプロジェクターを選択すると、自動的に投写が始まります。
ランチャーの ▶ をクリックする必要はありません。

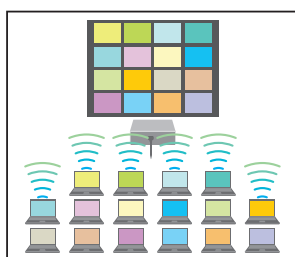
マルチライブモード

マルチライブモードを利用すると、１台のプロジェクターに複数のコンピューターから多人数での投写を行うことができます。
複数のコンピューターを使った参加型ミーティングをする場合に便利な機能です。

４人のコンピューターでプレゼンテーションができる

＜4 画面マルチスタイル＞ ☞ 43 ページ

最大４台のコンピューター画面を同時に表示します。
それぞれのコンピューター画面が同時に確認できるので、全員参加型ミーティングに最適です。

最大４台のコンピューターを使ってプレゼンテーターが議事を進行する

＜4 画面インデックススタイル＞ ☞ 44 ページ

４台のコンピューター画面をサムネイル表示し、リモコンで選択したコンピューターの画面を全画面で表示できます。
プレゼンテーターが映像を駆使しながらプレゼンテーションを進行でき、状況に応じた説明が行えます。

大学のゼミや学会で威力を発揮する多人数対応のスタイル

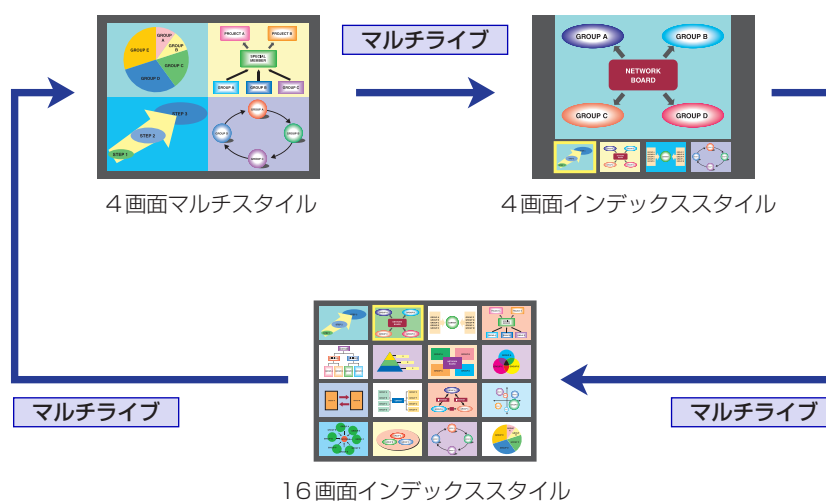
＜16 画面インデックススタイル＞ ☞ 45 ページ

16 台のコンピューター画面をサムネイル表示します。
大学のゼミや学会、グループ学習など、多くのコンピューターの画面を一覧で表示したい場合に最適です。

■ ライブスタイルの切り換え方法

● プロジェクターのメニューでスタイルを切り換える

プロジェクターの「ネットワーク」メニューから「マルチライブ」を選択し、<決定/ENTER>ボタンを押します。

☞ プロジェクターの取扱説明書

● 本ソフトウェアでスタイルを切り換える

本ソフトウェアの<マルチライブ>画面でスタイルを選びます。

✐お知らせ✐

- プロジェクター起動時は、プロジェクターの電源を切る前に使用していたスタイルが選択されます。
- プロジェクターを選択していないと、「送信者名の設定」(46 ページ) 以外、<マルチライブ>画面の操作をすることができません。
- 複数台のプロジェクターと通信しているときは、<マルチライブ>画面の操作をすることができません。
- マルチライブモードを終了する場合は、「ライブスタイルの選択」から[全画面スタイル]を選び、[適用]をクリックしてください。
- 16画面インデックススタイルで５台以上のコンピューターと通信している場合、４画面マルチスタイルに切り換えると、５台目以降のコンピューターの通信が切断されます。
- プロジェクターから全画面で投写しているときは、ライブスタイルが選択できません。
  プロジェクターからの投写を停止してから、ライブスタイルを選択してください。

4画面マルチスタイル

最大４台までのコンピューターの画面を、１台のプロジェクターから同時に投写します。

1 ランチャーの をクリックし、<オプション>画面の「マルチライブ」をクリックする

☞「本ソフトウェアでスタイルを切り換える」（42 ページ）

2 「ライブスタイルの選択」から［4画面マルチスタイル］を選び［適用］をクリックする

3 投写したい位置のアイコンをクリックする

● スクリーン面のどの位置に投写するかを選択してください。

4 ランチャーの をクリックする

コンピューターの画面がプロジェクターから投写されます。

● **投写位置を切り換える**
投写する位置を変更する場合は、「投写画面に対する表示位置」のアイコンをクリックして変更してください。

● **４画面マルチスタイルを解除する**
４画面マルチスタイルを解除する場合は、「ライブスタイルの選択」から［全画面スタイル］を選び、［適用］をクリックしてください。

お知らせ

● すでにコンピューターの画面が投写されている位置に他のコンピューターからの画面が投写された場合は、あとから投写したコンピューターの画面に切り換わります。

4画面インデックススタイル

最大４台までのコンピューターの画面を、１台のプロジェクターからインデックス画面と大画面で同時に投写します。

1 ランチャーの をクリックし、<オプション>画面の「マルチライブ」をクリックする

☞「本ソフトウェアでスタイルを切り換える」（42 ページ）

2 「ライブスタイルの選択」から［4画面インデックススタイル］を選び［適用］をクリックする

3 投写したい位置の番号をクリックする

- インデックス画面（小画面）のどの位置に投写するかを選択してください。

4 ランチャーの ▶ をクリックする

コンピューターの画面がプロジェクターから投写されます。

- **投写位置を切り換える**
  投写する位置を変更する場合は、「投写画面に対する表示位置」のアイコンをクリックして変更してください。
- **全画面に表示する**
  全画面に表示する場合は、「拡大プロジェクターの選択」の をクリックして対象のインデックス画面を選択（黄色の枠を移動）し、決定をクリックします。
  再度、決定をクリックすると、全画面に表示されます。
  インデックス画面に戻る場合は、もう一度決定をクリックしてください。

- **４画面インデックススタイルを解除する**
  ４画面インデックススタイルを解除する場合は、「ライブスタイルの選択」から［全画面スタイル］を選び、［適用］をクリックしてください。

お知らせ

- ４画面インデックススタイルで他のコンピューターが投写している場合は、未使用のインデックス画面（小画面）にのみ投写することができます。
- 全画面表示とインデックス画面表示の切り換えは、リモコンやバーチャルリモコン（46 ページ）でも操作できます。
- 機種によっては、プロジェクターに付属されているリモコンに （ページ）ボタンが付いている機種がありますが、このボタンで対象のインデックス画面（黄色の枠）を操作することができません。
  ☞ プロジェクターの取扱説明書

16画面インデックススタイル

最大16台までのコンピューターの画面を、1台のプロジェクターから同時に投写します。

1 ランチャーの をクリックし、<オプション>画面の「マルチライブ」をクリックする

☞「本ソフトウェアでスタイルを切り換える」（42 ページ）

2「ライブスタイルの選択」から［16画面インデックススタイル］を選び［適用］をクリックする

3 ランチャーの ▶ をクリックする

空いているインデックス画面（小画面）に自動的にコンピューターの画面が投写されます。
表示する位置を選択することはできません。

- **全画面に表示する**
  全画面に表示する場合は、「拡大プロジェクターの選択」の をクリックして対象のインデックス画面を選択（黄色の枠を移動）し、決定をクリックします。
  再度、決定をクリックすると、インデックス画面に戻ります。

- **16画面インデックススタイルを解除する**
  16画面インデックススタイルを解除する場合は、「ライブスタイルの選択」から［全画面スタイル］を選び、［適用］をクリックしてください。

お知らせ
- 16画面インデックススタイルで他のコンピューターが投写している場合は、未使用のインデックス画面（小画面）にのみ投写することができます。
- 全画面表示とインデックス画面表示の切り換えは、リモコンやバーチャルリモコン（46 ページ）でも操作できます。
- 機種によっては、プロジェクターに付属されているリモコンに ▲▼（ページ）ボタンが付いている機種がありますが、このボタンで対象のインデックス画面（黄色の枠）を操作することができません。
  ☞ プロジェクターの取扱説明書

オプション機能

送信者名の設定

マルチライブモードでの投写映像に、送信者の名前を表示することができます。

1 ＜マルチライブ＞画面の「投写画面へ名前を表示する」にチェックを入れる

2 送信者名を入力し［適用］をクリックする

● 半角の英数字（8文字まで）を入力してください。

✐お知らせ✐
● 4画面インデックススタイル、または16画面インデックススタイルを使用している場合は、「投写画面へ名前を表示する」のチェックを外しても送信者名が表示されます。

バーチャルリモコン

コンピューターの画面にリモコンを表示して、プロジェクターを操作することができます。

✐お知らせ✐
● バーチャルリモコンは、プロジェクターと通信していないと操作することができません。
● 複数台のプロジェクターと通信している場合は、すべてのプロジェクターを操作することになります。
● 使用しているプロジェクターにより利用できない機能があります。
☞ プロジェクターの取扱説明書

WEB制御

コンピューターのWEBブラウザーを使用して、プロジェクターを制御することができます。

☞ プロジェクターの取扱説明書、またはネットワーク操作編

● 複数台のプロジェクターと通信している場合は、操作するプロジェクターを選択して[WEB制御]をクリックしてください。

複数台のプロジェクターとの通信時

お知らせ

● プロジェクターと通信していないとき（ランチャー上のアイコンが「投写不可」の状態を示しているとき）は、WEB制御を選択することができません。

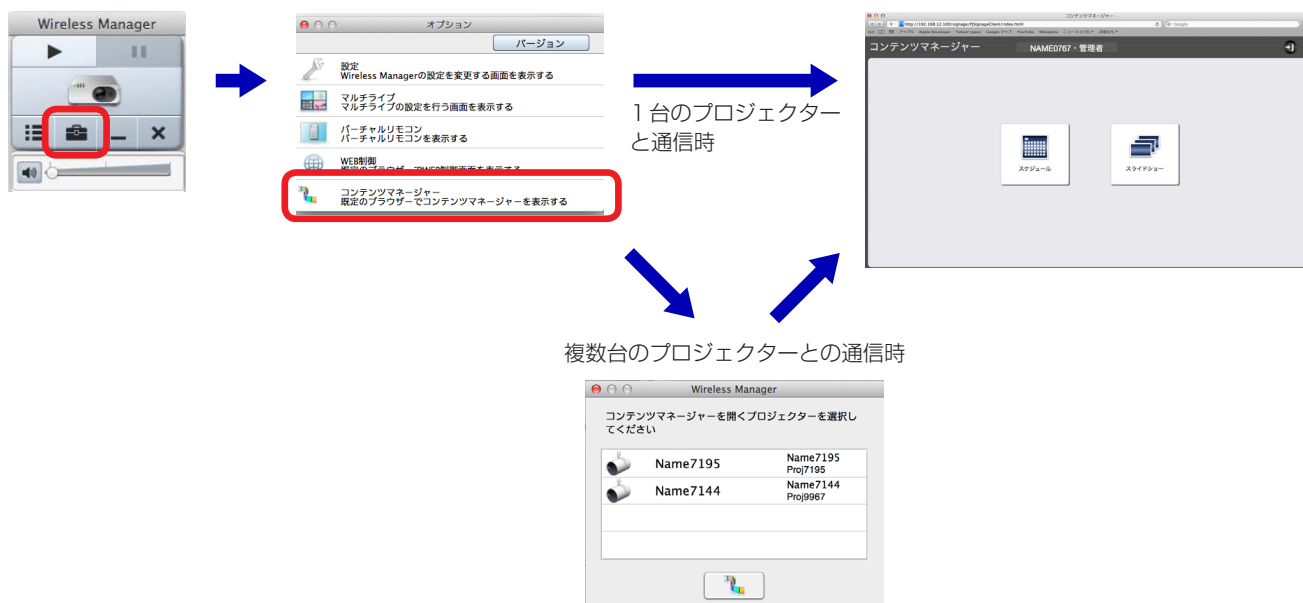
● 通信しているプロジェクターの機種により、対応するWEBブラウザーのバージョン、およびWEBブラウザーに表示される内容が異なることがあります。
☞ プロジェクターの取扱説明書

コンテンツマネージャー

コンピューターのWEBブラウザーを使って、コンテンツマネージャーを表示することができます。

☞ プロジェクターの取扱説明書

● 複数台のプロジェクターと通信している場合は、コンテンツマネージャーを表示するプロジェクターを選択選択して[コンテンツマネージャー]をクリックしてください。

複数台のプロジェクターとの通信時

✐お知らせ✐

● コンテンツマネージャーを表示することができるのは、NTN91000W/NTN91000Bのみです。
対応機能については、弊社WEBサイト(http://www2.panasonic.biz/es/lighting/)の「対応機能一覧表」をご覧ください。

● コンテンツマネージャーを搭載したプロジェクターと通信しているときのみ、オプション画面に[コンテンツマネージャー]は表示されます。

● 通信しているプロジェクターの機種により、対応するWEBブラウザーのバージョン、およびWEBブラウザーに表示される内容が異なることがあります。
☞ プロジェクターの取扱説明書

バージョン情報

本ソフトウェアのバージョン情報を表示します。

用語解説

用語	説明
Access point アクセスポイント	無線LANでコンピューターとネットワークを接続する電波中継機のことです。 アクセスポイントに接続することで、アクセスポイントが接続されているネットワークにアクセスできるようになります。
Account ユーザーアカウント	コンピューターを使う人（ユーザー）を識別するための登録名のことで、「管理者」と「標準ユーザー」があります。標準ユーザーでは、一部使えない機能やアプリケーションソフトがあります。
管理者権限のアカウント	他のユーザーに影響する変更を行うことができるアカウントです。
AD HOC	アクセスポイントを介さずにコンピューターどうしが直接通信を行うモードのことです。
AES	Advanced Encryption Standardの略です。 通信中でも暗号キーを変更し続けることにより、暗号キーが解読されることを防ぐので安全性が高くなります。 AESは、暗号化処理をハードウェアで行うので、アクセスポイントもAESに対応している必要があります。 米国商務省標準技術局（NIST）によって規格化された、米国政府の次世代標準暗号化方式です。
Default Gateway デフォルトゲートウェイ	使用しているネットワークの規格と異なった他のネットワークに接続する場合などに使われる機器のことで、双方のネットワーク間のプロトコルの違いなどを調整して、他のネットワークとの接続を可能にします。アクセス先のIPアドレスについて特定のゲートウェイを指定していない場合に、デフォルトゲートウェイに設定されているホストにデータが送信されます。
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocolの略です。 接続されている機器に自動的にIPアドレスを割り振る機能です。 DHCPサーバーの機能を持った機器がLAN内にあれば接続されている機器に自動的にIPアドレスを割り振ります。
Encryption 暗号化	他人にわからない形にデータを変換することです。 送信者と受信者の間でデータを変換するためのルール（アルゴリズム）と鍵（ネットワークキー）を決めておき、送信者が変換（暗号化）したデータを受信者が元に戻します（復号化）。 重要なやり取りを他人に解読されることなく行うことができます。
Firewall ファイアウォール	ネットワーク（インターネットなど）経由の不正なアクセスからコンピューターを守るためのセキュリティーシステムのことです。 ネットワークとの間でやり取りされるデータを規制して、認められているデータ以外は通過できないようにすることで、不正なアクセスを防ぎます。
Hub ハブ	同じ種類のケーブルを集めて、情報を中継するための装置のことです。 USBハブやネットワークハブなどがあります。
Infrastructure Mode インフラストラクチャーモード	アクセスポイントを経由し、通信するモードのことです。
IP address IPアドレス	ネットワークでデータを配送する先にあたるアドレスのことです。 IP（Internet Protocol）は、データを配送するためのプロトコルで、同一ネットワーク内で同じIPアドレスを使用することはできません。
LAN	Local Area Networkの略です。 会社内など比較的狭い範囲のネットワークのことです。
Login ログイン	ネットワークやコンピューターのシステムにアクセスできる状態にすることです。 ログオンとも呼ばれます。
MAC address MACアドレス	各ネットワークアダプターに割り当てられた固有のID番号のことです。 全世界のネットワークアダプターには、1枚1枚固有の番号が割り当てられており、これを元にアダプター間のデータの送受信が行われます。 IEEEが管理・割り当てをしているメーカーごとに固有な番号と、メーカーが独自に各アダプターに割り当てる番号の組み合わせによって表されます。

用語	説明
MPEG	デジタル動画を効率的に圧縮するための技術のことです。 そのひとつであるMPEG2は、すぐれた画質で、DVD-Videoなどに利用されています。 圧縮率がMPEG2より低いMPEG1もあり、Video CDで利用されています。また、電話回線など通信速度の低い回線を通じた低画質、高圧縮率の映像の配信を目的としたMPEG4という規格もあります。
Open System オープンシステム／ オープン	公開鍵暗号を用いた無線認証方式のひとつです。
Protocol プロトコル	コンピューターどうしでデータ通信をするために、必要な共通の約束事のことです。 異なるコンピューターどうしでデータのやり取りができるようにするためには、データ送受信のタイミングや送受信される情報のフォーマットなど、双方に同じ約束事が必要となります。例えばインターネットでは、TCP/IP（Transmission Control Protocol/Internet Protocol）と呼ばれるプロトコルを使って、さまざまなソフトウェアがデータ通信を行っています。
Router ルーター	異なるネットワークどうしを中継して、相互に接続するための機器のことです。 ネットワークを通してデータ転送する場合、複数のネットワークから適切な転送経路を選択する必要があります。
SSID	Service Set IDの略です。 無線LANでは、通信したいアクセスポイントであるかどうかを区別するために、SSIDと呼ばれる識別コードを設定する必要があります。 一部メーカーの無線LANアダプターによっては、［ESSID］や［ネットワーク名］などと表示されている場合もあります。
Subnetmask サブネットマスク	ネットワークでは、大きなネットワークをサブネットと呼ばれる複数の小さなネットワークに分割して管理する場合があります。 その場合のIPアドレスを区切るための値のことをサブネットマスクといいます。
WEP	Wired Equivalent Privacyの略です。 通信するデータを暗号化する方式です。暗号キーを作成して通信する相手だけに知らせることで、第三者に通信データを解読されないようにします。
Wireless LAN 無線LAN	電波を利用して、無線で通信を行うネットワークのことです。 共通の無線周波数を使ってデータの送受信を行いますので、LANケーブルの配線が不要です。 情報伝達のセキュリティーを守るため、SSIDやWEPを利用できます。

困ったとき

■ プロジェクターとコンピューターが無線LAN接続できないとき

- **本ソフトウェアを起動していますか。**
  プロジェクターに無線LANで画像を送信するには、コンピューター側で本ソフトウェアを起動する必要があります。
- **ネットワークの設定は正しいですか。**
  無線LAN接続の設定が[USER1]～[USER3]、[M-DIRECT]のプロジェクターを選択する場合、プロジェクターのネットワーク設定とコンピューターのネットワーク設定が正しいか確認してください。
- **ファイアウォールが[入]になっているとき**
  ファイアウォールを停止してから、本ソフトウェアを起動してください。

■ コンピューターの管理者権限がないとき

管理者権限がない場合、管理者の名前とパスワードの入力が必要になります。

■ 無線LAN、または有線LANの接続が切れてしまう

投写が中断された場合や通信が切断された場合は、プロジェクターのリストから再度プロジェクターを選択してください。
それでもプロジェクターと通信できない場合は、プロジェクターの電源を切り、クーリングが終了した(本体の電源モニターが橙色から赤色に変わった)後に本体の主電源スイッチがある場合は、スイッチを切ります。
スイッチがない場合は、電源ケーブルを抜きます。
再度電源を入れてから、もう一度本ソフトウェアからプロジェクターを選択してください。
(☞ 18ページ)

■ インターネットをしながら無線LAN接続を行いたい

- インターネット接続が可能な無線LAN環境がある場合は、この無線LAN環境にプロジェクターを組み込むことによりインターネット接続、プロジェクターとの無線LAN通信の併用が可能となります。(☞ 22ページ)
- 有線LANでのインターネット接続環境がある場合は、有線LANでのインターネット接続、無線LAN接続の併用が可能です。

■ IEEE802.11gで接続できない／IEEE802.11nで接続できない

- IEEE802.11b、IEEE802.11g対応の無線LANアダプターが混在するような環境ではIEEE802.11bで接続される場合があります。
- 使用環境(場所、電波状況、距離など)によっては、IEEE802.11bで接続される場合があります。
- 無線LANのアダプターによっては、“AD HOC”接続ではIEEE802.11bでの接続しかサポートしていないものがあります。
- IEEE802.11nで使用できるのは、[S-DIRECT]、[M-DIRECT]、ワイヤレスモジュール(品番：ET-WM200)およびインフラストラクチャー接続(802.11n対応アクセスポイント使用時)を使用した場合に限ります。
  [S-DIRECT]、[M-DIRECT]、ワイヤレスモジュールは一部のプロジェクターのみ使用可能です。
  詳しくは弊社WEBサイト(http://www2.panasonic.biz/es/lighting/)の「対応機能一覧表」をご覧ください。また、プロジェクターの付属品に本ソフトウェアのCD-ROMがある場合は、CD-ROM内のアプリケーションランチャーにある「対応機能一覧表」をご覧ください。

■ 転送速度が遅くなった

- 使用環境(場所、電波状況、距離など)によっては、遅くなることがあります。
- コンピューターの無線LANアンテナの近くに、金属などの導電体を配置すると転送速度が遅くなることがあります。

■ 投写開始に失敗する

グラフィックス自動切替機能を搭載しているコンピューターは、「システム環境設定」の「省エネルギー」の「グラフィックスの自動切り替え」が有効になっている場合に、投写開始に失敗することがあります。
投写開始に失敗する場合は、この機能を無効にして使用してください。

■ 画像の表示やアニメーションの再生が遅い、スムーズでない

- コンピューターのCPU速度が遅くありませんか。
  （☞ 9 ページ）
  画像の表示やアニメーションの再生は、コンピューターのCPU性能に大きく依存します。
- 周囲で無線通信が行われている場合は影響を受ける場合があります。
- ランチャーの [オプション] → [設定] で、「高画質で投写する（パフォーマンスに影響します）」を選択している場合には、画面表示が遅くなることがあります。
  （☞ 40 ページ）
- 他のアプリケーションを同時に起動している場合、遅くなることがあります。

■ DVDやMPEG2、Blu-ray Discのコンテンツがコンピューター上で再生できない

- 本ソフトウェアを起動しているときは、以下の制限があります。
  - DVD、MPEG2、Blu-ray Discの動画の再生はできません。
  - 3D系のアプリケーションを使用した場合、アプリケーションの性能が低下したり、描画されなかったり等、正常に動作しない場合があります。
- 本ソフトウェアを終了し、コンピューターケーブルやHDMIケーブルを接続してご利用ください。
  （動画を再生するプレイヤーによっては、動画が再生できない場合もあります。）

■ コンピューター操作と実際の投写映像にタイムラグがある

- 本ソフトウェアはコンピューターの画面を取り込んで圧縮してからプロジェクターに送信します。また、プロジェクター側では受信したデータを解凍してから投写します。
  この処理時間と無線LANの環境によって遅延時間が発生します。ご使用のコンピューターの性能によっても遅延時間に差がでます。

■ ライブスタイルを変更できない

- ランチャーの [オプション] → [マルチライブ] → 「ライブスタイルの選択」でライブスタイルを選び、[適用] をクリックするとスタイルが切り換わります。
  （☞ 42 ページ）
- バーチャルリモコンの [マルチライブ] をクリックするとスタイルが切り換わります。
  （☞ 46 ページ）
- プロジェクターの「ネットワーク」メニューから「マルチライブ」を選択し、<決定/ENTER>ボタンを押すことで切り換えることができます。
- 全画面で表示をしているときは、スタイルを切り換えることができません。一旦、投写を停止してからライブスタイルを変更してください。

■ 投写時にプロジェクターからコンピューターの音声がでない

- 本ソフトウェアをインストールした後には、必ず再起動を行ってください。
- 複数台のプロジェクターと同時に通信している場合は、利用できません。
- ドライバーをアンインストールしている場合は、音声が出力されません。
- 内蔵スピーカーから音声が出ない場合は、本ソフトウェアの終了後、「システム環境設定」の「サウンド」の「出力」で、「内蔵スピーカー」が選択されていることを確認してください。
  選択されていない場合は、手動で「内蔵スピーカー」に切り換えてください。

■ 本ソフトウェアの色表示が正しくなく、文字が読みづらい

- 「システム環境設定」の「ディスプレイ」の「カラー」を確認してください。
  「約32,000色」以上に設定してください。
  「256色」の場合は、投写することができません。

■ ディスプレイの明度が下がらない

- **「投写時にスクリーンセーバを無効にする」にチェックマークが付いていませんか。**
  ランチャーの [オプション] → [設定] → 「投写時にスクリーンセーバを無効にする」にチェックが入っている場合、内蔵ディスプレイの明度は下がりません。（☞ 40 ページ）

■ 検索したプロジェクターに投写する時に、プロジェクターの電源が入らない場合

- プロジェクターがPT-VW345N、PT-VX415NまたはNTN91000W/NTN91000Bで、投写時にプロジェクターの電源が入らない場合があります。
  その場合は、以下の操作をしてください。
- PT-VW345N、PT-VX415Nの場合
  プロジェクターの電源を入れて、メニューの[セットアップ]→[ECOマネージメント]→[スタンバイモード]の設定を[ECO]または[ネットワーク]から[ノーマル]に切り換えてください。
- NTN91000W/NTN91000Bの場合
  プロジェクターの電源を入れて、[メニュー] → [プロジェクター設定] → [ECOマネージメント] - [スタンバイモード]の設定を、[ネットワーク]から[ノーマル]に切り換えてください。

■ プロジェクターの入力ガイドに、無線LANの無線LAN接続の設定、プロジェクター名、ネットワークIDが表示されない
■ プロジェクターが検索できない

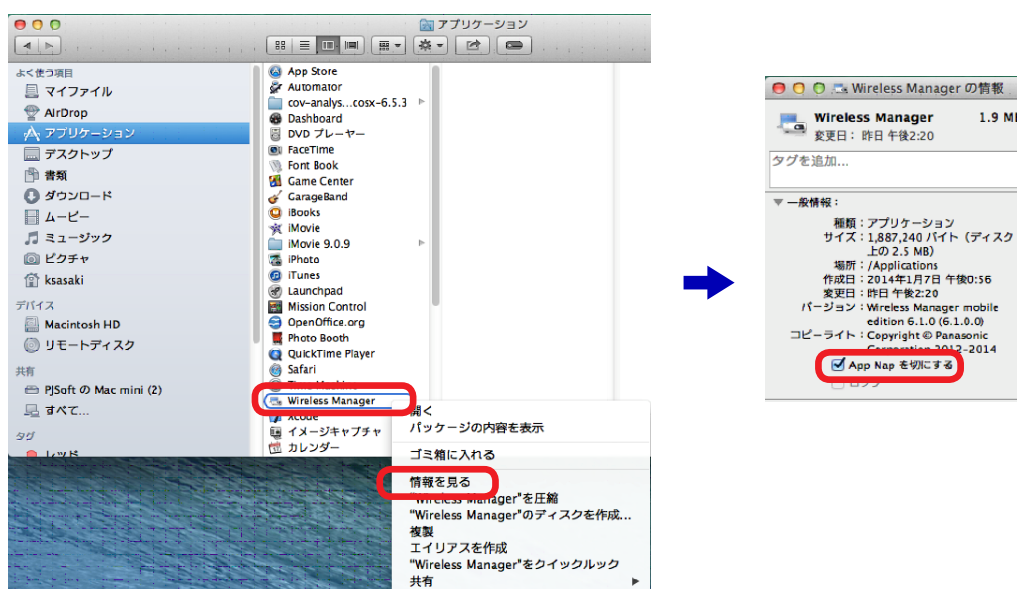
- プロジェクターがPT-VW345N、またはPT-VX415Nの場合、プロジェクターの設定によっては、無線LANの無線LAN接続の設定、プロジェクター名、ネットワークIDが表示されない、もしくは見つからない場合があります。その場合は、以下の操作をしてください。
  [メニュー] → [ネットワーク] → [コネクションロック]が[オフ]の場合：リモコンの<Panasonic APP>ボタン（またはプロジェクター本体操作部の入力切換ボタン）を押して、入力を[Panasonic APPLICATION]に切り換えてください。
  [メニュー] → [ネットワーク] → [コネクションロック]が[メモリービューワー] / [Miracast(TM)]の場合：[コネクションロック]を[Panasonic APPLICATION]に切り換えてください。

■ Mac OS X 10.9の「App Nap」機能による制限の解除方法

Mac OS X 10.9で再生画像をフルスクリーンにした場合、投写映像が途中で止まる

Mac OS X 10.9使用時、OS X 10.9の「App Nap」機能により、再生画像をフルスクリーン表示で使用した場合、投写画像が途中で停止する場合があります。その場合以下の手順で、本ソフトウェアの「App Nap」機能をオフにしてください。

＜登手順＞

1. 本ソフトウェアを終了する。
2. 本ソフトウェアの情報を表示する。
   ＜操作方法＞
   「Finder」－「アプリケーション」－「Wireless Manager」を選択し、マウス右クリックで「情報を見る」メニューを選択します。
3. 「App Nap」機能をオフにしてください。
   ＜操作方法＞
   情報画面の「App Napを切にする」の項目にチェックを入れてください。
4. 情報画面を閉じてください。
5. [「Wireless Manager」アプリケーションを起動してください。

✐お知らせ✐

● これらの情報と併せて弊社WEBサイト(http://panasonic.biz/projector/)のFAQ（Frequently Asked Questions）もご覧ください。

商標について

- Mac と Mac OS、OS X は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- Intel®、Intel® Centrino®、Intel® Core™2 Duo および Intel® Core™ i5 は、アメリカ合衆国およびその他の国におけるインテル コーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。
- Miracast™ は、Wi-Fi Alliance の商標です。
- その他、この説明書に記載されている各種名称・会社名・商品名などは各社の商標または登録商標です。なお、本文中では ® や TM マークは明記していません。

ご注意

- 本製品のソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製することはできません。
- 本製品のソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品のソフトウェアの仕様、およびマニュアルに記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。

パナソニック お客様ご相談センター

電話 フリーダイヤル

0120-878-365
※携帯電話·PHSからもご利用になれます。

365日
受付9時～20時

URL http://www2.panasonic.biz/es/lighting/

* 文書や電話でお答えすることがあります。また、返事を差しあげるのにお時間をいただくことがございます。
* お電話の際には、番号をお確かめのうえ、お間違えのないようにおかけください。

ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

パナソニック株式会社およびその関係会社は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、折り返し電話させていただくときのため、ナンバー·ディスプレイを採用している場合があります。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務などを委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

パナソニック株式会社　エコソリューションズ社

〒571-8686　大阪府門真市大字門真1048番地

M0714TA0 -PS